

カリフォルニアの風（5月号）

対面授業が始まってから2か月が過ぎようとしています。

日本語補習校で受ける授業は楽しいですか。学校でお友だちと楽しく過ごしていますか。

ひと月前のことになりますが、「さようなら」とあいさつを交わしているとき、立ち止まったお友だちがいましたので、「今日は楽しかったですか」とたずねました。すると、「楽しくなかった」という返答。その理由が聞きたくなって、「どうして？」と質問をしますと、「テストができなかった」と言葉を続けてくれました。「そうだったの」と言葉を返したときに、お家の方が迎えに来られました。そして先ほどのやりとりをお伝えしたところ、笑顔で「子どもに聞いてみます」とおっしゃってお帰りになりました。

さあみなさん、その後親子でどんなやりとりがあったと思いますか。想像してみてください。きっとそのお家の方は、笑みをふくみながら「うん、うん」と聞いてくれていたのではないかと思うのですが、そう思うのは私一人だけでしょうか。今度、こっそり聞いてみたいと思います。そのとき、「今日はテストもできて、楽しかったよ」と答えてくれたらいいなあと思っています。

さて今回は、「よく学び、よく遊べ」ということについて考えてみたいと思います。

まず、「よく学び」とはどういうことでしょうか。単にものを覚えたり暗記したりすることではないように思います。「ふしぎだなあ」「どうしてかな」と、いろいろなことに興味や関心をもって、自分の頭でよく考えることだと思います。たとえば授業で、お友だちの話や話を聞くと、もっとくわしく知りたくなるときがあります。そのとき、どんな質問をするとお友だちからたくさんの話が引き出せるか考えるとよいと思います。質問とその答えを聞いて、どんなことが心に残ったか伝え合うと、話す力や聞く力がついてきます。言葉と言葉をつなぐこともできるようになります。これが「学ぶこと」だと思います。「よく学ぶ」といろいろなことができるようになって楽しそうです。

では、「よく遊べ」とは、どういうことでしょうか。「遊び」とは、人から「遊びなさい」と言われて遊ぶものではありません。自分の好きなことを好きなように遊ぶのが遊びです。自分の好きなことを一生懸命にやり、お友だちと夢中になって遊ぶいろいろなことを体で覚えます。お友だちのよいところがわかります。お友だちのいやがる場所もわかります。そしてがまんすることも覚えます。そしてお友だちがたくさんできます。遊ぶって、楽しいです。

このごろの季節のことを日本では、「小満（しょうまん）」といいます。それは草木が成長して満ちてくるという意味があります。対面授業が始まって2か月、みなさんが、日本語を学んだり日本語で考えたり、お友だちと遊んだりしている姿を見ていると、体中にエネルギーが満ちてきているようで、これからの成長がますます楽しみになって、とてもうれしい気持ちになります。

保護者の皆様へ

お子さんは、学校生活に慣れたころかと思いますがいかがでしょうか。

4月から今月にかけては、お子さんもお家の方も新しい環境に戸惑ってばかり。また目の前に

いろいろなことが次から次へと通りすぎて、目のまわるような思いで過ごされていたのではないかと思います。そのようなご多用中にもかかわらず、授業参観及び学級懇談会にご出席いただきありがとうございました。またアンケートにもご協力いただき重ねて感謝申し上げます。

つい先日のことです。

教育講演会の機会を幼小サンフランシスコ校でいただきました。その場で日本語補習校に通う子どもたちは、日本国内の子どもたちよりも、「自制心・忍耐力・やり抜く力・協調性・責任感」などの「非認知能力」が優れているという話をしました。これら非認知能力は数値化されにくいのですが、生涯にわたって学び成長を続けていくための『土台』となるものです。考えてみれば、あたりまえの事かも知れません。

お子さんは、最初言葉も満足に通じない現地校で、自分なりに考えをあれこれと働かせ、肯定したり否定したりし、何とか状況を理解しようと根気よく耳を研ぎ澄ませています。そのときの集中力というものは、日本の学校では考えられないほどのものです。そのうえ日本語補習校で、基礎的基本的知識・技能及び日本の学校文化の内容をも学ぶのですから。

お子さんたちは、素晴らしいです。

子どもには、両親から命を授かったときにももらった「科学する本性」が備わっています。それは、五感でものを見て不思議に感じ、考えて、判断して知識を得て、それを新たな場を使うといった問題解決を促進するための『エネルギー』です。お子さんたちは今、この『エネルギー』をもとに、成長を続けていくための『土台』をつくっているときではないでしょうか。

そこで講演会の締めくくりは、「保護者の方が『あなたがいてうれしい』っていう愛を忘れない生き方を、また豊かな環境の中で子どもを自由に動かして『子どもの動きをよく見ること』を」といたしました。

改めて、子どもたちの今を見つめると、草木の根元に土をかけて植物を育てるように、日本語を学び日本語で考え、日本学校文化を体験する活動を通して、日本人としてのアイデンティティを、遊びを通して協働する大切さや想像力、思考力を育てているように思います。この5月を振り返りますと、ヤードで鯉のぼりがカリフォルニアの風をいっぱい吸い込んで元気いっぱい泳いでいました。「よく学び、よく遊ぶ」子どもたちを象徴していたのかも知れません。

追記

先月の末、かつての教え子たちに「カリフォルニアの風（4月号）」に寄稿したことを伝えましたところ、数名から返事をいただきました。その中の一つを紹介させていただきます。

「学校長挨拶とカリフォルニアの風を読ませていただき、先生が、私が中3だったころと変わらぬ熱い情熱を持ち続けていらっしゃることに深い感銘を受けました。

先生の情熱は生徒に伝播し、生徒の心に火をともし、子どもが本来持っている潜在能力が引き出されていくものなんだなあと、中3の時を振り返って、そう感じています。

大切なのは一方的な押し付けでなく、子ども自身が自ら考え、行動していくことへの「手助け」なんですね。高1の娘がいて、身内だといふ口うるさくなってしまう。そんなときはこのホームページの、先生の言葉を読み返そうと思います。」（原文のまま）